

ぎふワールド・ローズガーデン実習フィールド作庭の設計・施工

1. はじめに

ぎふワールド・ローズガーデンには、国際園芸アカデミーの実習フィールドが平成30年に整備された。実習フィールドにおける作庭実習を毎年行っており、今年は4年目になる。この制作の目的はフィールド内の造園緑化エリアに全体として調和のとれた庭をつくることとしており、今回の作庭のテーマは里山である。

2. 設計

テーマとなっている、里山はムラ（集落）、ノラ（耕地）、ヤマ（林野）から成り、さらに、ヤマにはオクヤマ（奥山）もある。作庭4年目となる今年は、施工場所が造園緑化エリア内の最も高い位置にあることから、「東海地方のオクヤマ」とした。ぎふワールド・ローズガーデンの東側に我田の森という地域住民が管理している里山があり、その頂上に我田の大岩と呼ばれる大岩がある。現地調査を行い、その大岩に行くまでの山道では、岩盤が露頭しているところが多くあり、その山道をイメージしてデザインした（図-1、2）。また、作品名を奥山に続く山道を表現して作庭したことから「奥のこみち」とし、作庭が今後続いていくその途中にあることから、「こみち」の「みち」の漢字を目的地に向かっていく、その途中という意味のある「途」とした。

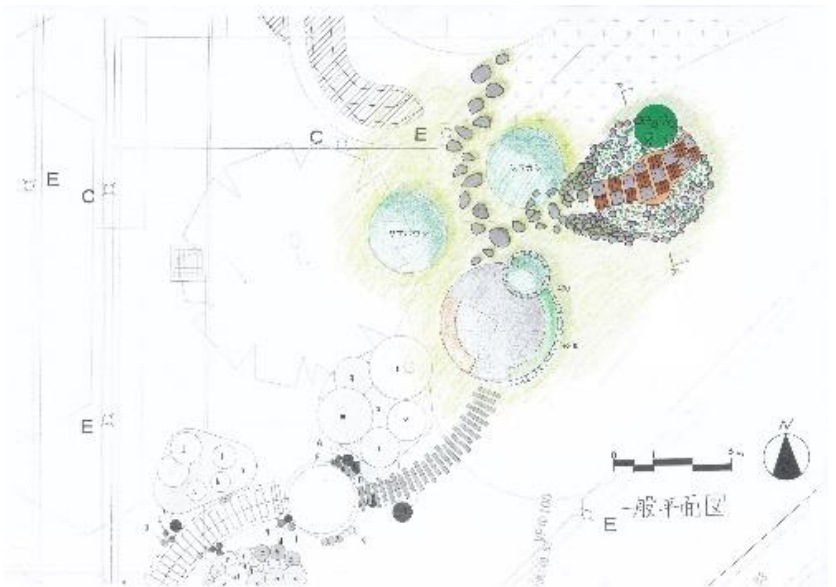


図-1 平面図

●岩盤をイメージした石組

山道で岩盤が露頭しているところを表現するため、土留めとして石を使用し、ロックガーデン風にするとともに園路両側を小端積みにしている。小端積み、土留めの石は気良石（岐阜県産）を使用した。

●市松模様の舗装

園路のデザインは、東京オリンピック・パラリンピックのエンブレムに採用された市



図-2 イメージ図

松模様を取り入れた。オリンピックにおいて、このエンブレムは多くの文化や国が関わり広がって行くことによる多様性を表現していることを知った。そこで舗装に石と木という自然素材を使用し、市松模様に配置することで、「里山の多様性」を表現した。

●里山が感じられる植栽

植栽は、東海地方に分布するシデコブシをはじめ、スマレ・カタクリ・テッポウユリ・ヒガンバナなど四季を通して、花を楽しむことができるような植栽とした。しかし、当初はシデコブシを植える予定だったが、入手することができず、ハナウメに変更となった。また、その他の植栽も季節の関係で一部変更となった。

3. 施工

施工手順は、土工→飛石→土留め工（小端積み）→景石（ロックガーデン）→舗装工→植栽工→片付けの順で行った。土工では測量・丁張を行い、高さを確認しながら掘削していき、小端積み・ロックガーデンでは、厚みや大きさが異なる石を四ツ目地や石の安定に気を付けながら組み合わせていった（写真－1）。舗装は歩幅や舗装材料の間隔を気にしながら据え付け（写真－2）、最後に砂利を敷き入れた。



写真－1 小端積み



写真－2 舗装工

4. まとめ

勾配がある施工場所に作庭することが初めてだったため、戸惑いも多かったが、その都度みんなで話し合いながら協力して施工することができた。小端積み、ロックガーデンなど、これまでに学んできたことの集大成となる作品となった。今後も技術、知識をさらに深め磨いていきたい。前期中の授業で、ぎふワールド・ローズガーデンの実習フィールドの作庭をするにあたり、私のデザインが採用されたため、制作の取りまとめを行うことになった。工程計画や役割分担を決めるなどの制作の段取りを私が行うことになったが、他のメンバーに多々迷惑をかけてしまった。しかし、最終的に造園緑化コースの学生同士が協力して1つの制作を行えたことは大変貴重な経験となった。



写真－3 完成写真

しかし、最終的に造園緑化コースの学生同士が協力して1つの制作を行えたことは大変貴重な経験となった。